

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-121	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 712	数学 I		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の4つを基本方針に据え、確実な数学的教養の育成を目指した。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 「確かな記述」と「明解な解説」でより確実な知識、技能が習得できる。 |
| 2 | 問題解決のための思考力、判断力、表現力が育成できる。 |
| 3 | 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。 |
| 4 | 進学する生徒にとっても十分な数学的教養が身に付けられる。 |

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代に発展した日本の数学（和算）について紹介し、我が国の文化に触れる機会を設けた（第5号）。 ・職業において数学が活かされる場面を紹介し、職業との関連を重視する態度に繋がるようにした（第2号）。 ・放物面を利用した集音器や、測量に関する話題を紹介し、数学が実際の生活に生かされていることが実感できるようにした（第2号）。 	前見返し左中 前見返し左下 前見返し右
第1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> ・多項式や方程式の研究が中世の同時期に日本とフランスの数学者で行われていたことを取り上げ、数学が世界共通の文化であることを感じられるようにした（第1号、第5号）。 ・品物が最大で何個買えるかという事例を考えることで、数学と日常生活との関連を重視する態度を養う機会を設けた（第2号）。 	6 ページ 44 ページ
第2章 集合と命題	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を論理的に表現する能力や、事象を論理的に証明する能力がつくように配慮した（第1号）。 	50～71 ページ
第3章 2次関数	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の導入では、地上からの高さや気温の関係という自然の中に見いだされる関数を取り上げた（第4号）。 ・2次関数の知識を具体的な場面で活用する能力が身につくように配慮した（第1号）。 	74 ページ 98～99 ページ 125 ページ

	<ul style="list-style-type: none"> ある条件のもとでパンを売るときに得られる利潤が価格の2次関数として表現されることに触れ、経済現象を考える場面でも数学的手法が生きることを取り上げた(第2号)。 	131 ページ
第4章 図形と計量	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の知識を測量など具体的な場面で活用する能力が身につくように配慮した(第1号)。 	137 ~ 138 ページ, 170 ページ
第5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるデータの傾向を数学的に考察し説明できるように配慮した。(第1号) 懸念されるヒートアイランド現象を考察する機会を設けた(第4号)。 社会現象の中の実際のデータについての相関関係を取り上げ、社会の形成に参画する態度に繋がるようにした(第3号)。 仮説検定の考え方をを用いた考察において、商品開発や品質調査に関する例をあげ、社会の形成に参画する態度に繋がるようにした(第3号)。 	174~209 ページ 184~185 ページ 198 ページ 207 ページ 202~204 ページ
総合問題	<ul style="list-style-type: none"> 選挙を題材とした問題を取り上げ、主権者としての意識を高められるようにした(第3号)。 	210 ページ
課題学習	<ul style="list-style-type: none"> 数学Iで学んだ内容を、生活と関連付けたり発展させたりするなどして、生徒の関心や意欲を高める課題を設け、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにした(第1号, 第2号, 第5号)。 	214~223 ページ
数学と〇〇	<ul style="list-style-type: none"> 数学が数学以外の教科にも活かしている例を紹介し、幅広い知識と教養が身につけられるようにした(第1号)。 生活の中に数学が活用されている例を紹介し、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにした(第1号, 第2号)。 	224 ページ 225~226 ページ
答と略解	<ul style="list-style-type: none"> 意欲のある生徒には自学自習もできるよう、問題・演習問題・総合問題の答と略解を掲載した(第2号)。 	202~209 ページ
主な用語	<ul style="list-style-type: none"> 主な数学用語の英語表現や用語に関係するいくつかの話題を示し、インターネットや英語の文献等でグローバルに数学を調べてみようという場面に生かせるようにした(第1号, 第5号)。 	210~211 ページ
索引	<ul style="list-style-type: none"> 自ら振り返って学習もできるよう索引を入れた(第2号)。 	238~240 ページ
三角比の表(後見返し) 平方・立方・平方根の表(前見返し裏)	<ul style="list-style-type: none"> 数学を具体的に事象に活用する場面で、近似値が調べられるようにした(第2号)。 いろいろな値に対する平方・立方・平方根や三角比の近似値を見ることで、その値の変化の特徴に気付いたり、数的感覚が養えるようにした(第1号)。 	後見返し右 前見返し裏

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

「1. 編修の基本方針」にのっとり、以下の点に特に意を用いた。

1 「確かな記述」と「明解な解説」でより確実な知識，技能が習得できる。

定理や公式の証明は、なるべく省略せずにきちんと扱い、論理的に考える力を養えるようにした。

● 公式の証明

根号を含む式の計算公式 ……………

$a > 0, b > 0, k > 0$ のとき

3 $\sqrt{a} \sqrt{b} = \sqrt{ab}$ 4 $\frac{\sqrt{a}}{\sqrt{b}} = \sqrt{\frac{a}{b}}$ 5 $\sqrt{k^2 a} = k\sqrt{a}$

3の証明 $\sqrt{a} \sqrt{b}$ を2乗すると $(\sqrt{a} \sqrt{b})^2 = (\sqrt{a})^2 (\sqrt{b})^2 = ab$
 また、 $\sqrt{a} > 0, \sqrt{b} > 0$ であるから $\sqrt{a} \sqrt{b} > 0$
 よって、 $\sqrt{a} \sqrt{b}$ は ab の正の平方根である。
 すなわち $\sqrt{a} \sqrt{b} = \sqrt{ab}$

(32ページ：根号を含む式の計算公式)

● 定理の証明

余弦定理 ……………

△ABC において $a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A$
 $b^2 = c^2 + a^2 - 2ca \cos B$
 $c^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos C$

証明 次の等式を証明しよう。
 $a^2 = b^2 + c^2 - 2bc \cos A$ …… ①

[1] まず、△ABC において A, B がともに鋭角の場合を考える。
 頂点 C から辺 AB に垂線 CH を下ろすと、三平方の定理により

(155ページ：余弦定理)

スムーズに着実に数学的素養が身に付くよう、配列や題材を工夫している。

● 対称式の値 (34, 35 ページ)

本文(34 ページ)で 2 次の対称式の値，続く発展(35 ページ)で 3 次の対称式の値を扱い、スムーズに能力が高められるようにした。

● 三角比 (134～135 ページ)

正弦・余弦・正接の定義を同時に取り上げ、効率のよい展開にしている。

● 図表によるまとめ (122 ページなど)

文章だけでなく、図表も活用して、生徒の理解を助けるようにしている(2 次不等式の解，命題と逆・対偶・裏の関係など)。

対称式と基本対称式

多項式 $x^2 - xy + y^2$ において、文字 x と文字 y を入れ替えると、 $y^2 - yx + x^2$ となり、この式はもとの式 $x^2 - xy + y^2$ と同じである。このように、2 つの文字を入れ替えても、もとの式と同じになる多項式を対称式という。また、対称式 $x+y, xy$ を x, y の基本対称式という。

対称式と基本対称式について、次のことが知られている。

対称式は基本対称式を用いて表すことができる。

例えば、前ページの応用例題 4 では、対称式 $x^2 + y^2$ を基本対称式 $x+y, xy$ を用いて、次のように表している。

$$x^2 + y^2 = (x+y)^2 - 2xy$$

22 ページの展開の公式 5 より、 $(x+y)^2 = x^2 + 2xy + y^2$ であるから

$$x^2 + y^2 = (x+y)^2 - 2xy$$

(35ページ)

2 問題解決のための思考力，判断力，表現力が育成できる。

考えを深める問いを適切な場面で設定している。

● 構成要素「深める」

新構成要素「深める」として、別の方法で考えてみる，理由を説明するなど，本質的な理解に繋がる問いを適切な場面に設定した。

脚注として掲載することで，本文と識別しやすいレイアウトになっており，生徒の理解度等によって，適切なタイミングで取り上げることができる。

(92ページ)

深める $x=1$ で最小値をとる 2 次関数を 1 つ定めてみよう。

2 次関数の最大と最小

関数のグラフを利用すると，関数の値の増減の様子を知ることができる。78 ページでは，1 次関数のグラフをもとにして，関数の最大値，最小値について学んだ。ここでは，2 次関数のグラフをもとにして，2 次関数の最大と最小値，また，定義域に制限がある場合の最大と最小値について学ぼう。そして，最大・最小の応用問題として，円形に囲まれる数々の実例を関数として取り，その最大値や最小値を求めてみよう。

2 次関数の最大と最小

2 次関数の最大値や最小値を定めることを考えよう。

例 9 2 次関数 $y=2x^2-8x+3$ の最大値，最小値

この関数の式は $y=2(x-2)^2-3$ と変形される。そのグラフは下に凸で， y の値は頂点で最小となる。よって，この関数は $x=2$ で最小値 -3 をとる。

また， y はいくらでも大きな値をとるから，最大値はない。

例 10 2 次関数 $y=-2(x-2)^2+13$ に最大値，最小値があれば，それを求めよ。

深める $x=1$ で最小値をとる 2 次関数を 1 つ定めてみよう。

思考力、判断力、表現力を育成するための素材がある。

●節末問題

節末問題では、その節の復習問題に加えて、思考力等を要する問題も取り上げている。節で学んだ内容を活用して解決できる。

●総合問題

巻末には、思考力等を問う総合的な問題を取り上げている。「長文で構成された問題」「日常の事象や社会の事象を題材にした問題」など、章ごとに問題を用意しており、各章の学習を終えた段階で取り組むこともできる。

3 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。
生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がある。

●章扉の目標、項目始めの導入文

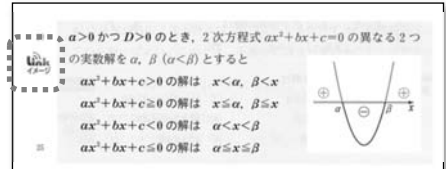
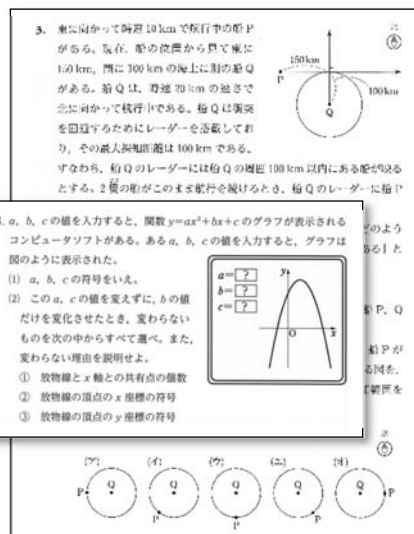
章扉に、その章で習得できることを「目標」として明示してある。更に、項目始めの導入文では、その項目で学ぶことの概要が示してあるので、生徒自らが見通しをもって学習に取り組むことができる。

●構成要素「深める」 → 2

●ICTの活用 Link マーク

教科書の内容に関連した参考資料、理解を助けるアニメーション、生徒自らが考察するためのツールなどのデジタルコンテンツを用意しており、インターネットに接続することで活用できる。

紙面では表現が難しい動きをとまなうコンテンツもあり、生徒がこれらに触れることで理解を深めることができる。



(117ページ)

数学の面白さ、数学のよさ、数学の奥深さが実感できる。

●コラム、数学と〇〇

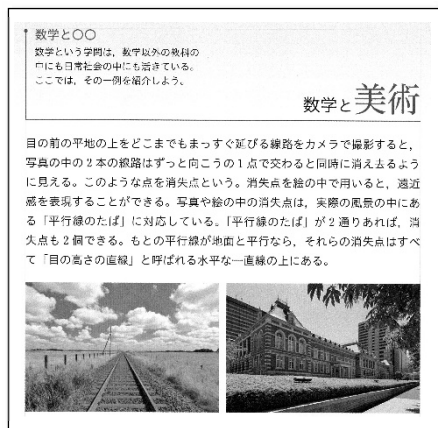
本文の内容に関連する興味深い話題をコラムとして取り上げている。また、巻末の「数学と〇〇」では、数学が、他教科や日常生活の中にも活かしている例を紹介している。

●章扉

章扉では、その章の内容に関連する数学者や数学の発展の歴史などを紹介し、その章を学ぶ動機づけになるようにしている。

●見返し

見返しでは、カラー写真とともに、数学の実社会への応用、数学の歴史などを紹介している。



(224ページ)

4 進学する生徒にとっても十分な数学的教養が身に付けられる。

やや程度の高い問題でも、その後の学習や進学後の学習に必要なものは、本文でしっかりと扱うようにした。

● 因数分解の応用 (20~21 ページ)

複 2 次式の因数分解, 2 元 2 次式の因数分解, 交代式の因数分解の問題など, 数学の基礎となる式の扱いに十分に慣れさせるようにした。

● 背理法による証明 (67 ページ)

やや程度の高い $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明も本文中で扱い, 確かな論証力の育成を目指した。

● 放物線の対称移動 (90 ページ)

平行移動だけでなく, 対称移動も本文中でしっかり学べるようにした。

● 文字係数を含む 2 次関数の最大最小 (97 ページ)

例題で取り上げ, その考え方を丁寧に説明し, 自分で場合分けをして問題を解く能力が育成できるようにした。

● 正弦の比と最大角 (161 ページ)

正弦定理を別の形で解釈して活用し, 問題を解決できるようにした。

前ページの例題 2 で, $\sqrt{2}$ が無理数であることを証明せずに用いた。
 $\sqrt{2}$ が無理数であることは, 背理法を用いて次のように証明できる。

応用 例題 1
 $\sqrt{2}$ は無理数であることを証明せよ。

【解答】 $\sqrt{2}$ は無理数でない, すなわち有理数であると仮定して矛盾を導く。また, 66 ページの例題 1 で証明した次のことを用いる。
 n を整数とすると, n^2 が偶数ならば, n は偶数である。

証明 $\sqrt{2}$ は無理数でない, すなわち有理数であると仮定すると,
 1 以外に正の公約数をもたない 2 つの自然数 a, b を用いて

$$\sqrt{2} = \frac{a}{b}$$

(67 ページ)

正弦定理の関係式 $\frac{a}{\sin A} = \frac{b}{\sin B} = \frac{c}{\sin C}$ は, 次のように書きかえられる。

$$a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$$

すなわち $a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$

応用 例題 2
 $\triangle ABC$ において, 次の等式が成り立つとき, この三角形の最も大きい角の大きさを求めよ。

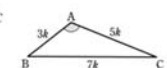
$$\sin A : \sin B : \sin C = 7 : 5 : 3$$

【解答】 最大の辺に向かい合う角が最大の角である。与えられた等式と正弦定理から, 最大の辺がわかる。

解 正弦定理により

$$a : b : c = \sin A : \sin B : \sin C$$

これと与えられた等式から

$$a : b : c = 7 : 5 : 3$$


(161 ページ)

本文外の「研究」や「発展」を学ぶことで, 更に充実できるようにした。

● 対称式と基本対称式 (35 ページ)

● 絶対値と場合分け (46 ページ)

絶対値の定義にしたがって場合分けをして, やや難しい方程式や不等式が解けるようにした。

● 全称命題・特称命題 (68 ページ)

大学の数学にもつながる「すべての x について p 」
 「ある x について p 」のという形の命題も扱った。

● 放物線と直線の共有点 (114~115 ページ)

数学 II 以降につながる内容としてしっかりと扱った。

● 仮説検定と反復試行の確率 (205 ページ)

反復試行の確率 (数学 A) を用いて, 仮説検定における確率を計算した場合について扱った。

発展 仮説検定と反復試行の確率

202, 203 ページのボールペンの書きやすさの調査に関する仮説検定において, 「A, B のどちらの回答も全くの偶然で起こる」という仮定のもとで, 30 人中 21 人以上が B と回答する確率を, コイン投げの実験を通して考えた。この確率は, 数学 A で学習する次の「反復試行の確率」を用いると計算することができる。

同じ状態のもとで繰り返し行うことができ, その結果起こる事柄を事象という。

反復試行の確率 1 回の試行で事象 A の起こる確率を p とする。
 この試行を n 回繰り返して行うとき, 事象 A がちょうど r 回起こる確率は ${}_nC_r p^r (1-p)^{n-r}$

【補足】 ${}_nC_r$ は異なる n 個のものから r 個を取り出して作る組合せの総数を表す。

A, B どちらの回答の起こる確率も $\frac{1}{2}$ であるという仮定が正しいとする。このとき, 30 人中 21 人以上が A と回答する確率は

$${}_nC_{10} \left(\frac{1}{2}\right)^{10} \left(\frac{1}{2}\right)^{20-10} + {}_nC_{11} \left(\frac{1}{2}\right)^{11} \left(\frac{1}{2}\right)^{20-11} + \dots$$

$$+ {}_nC_{20} \left(\frac{1}{2}\right)^{20} \left(\frac{1}{2}\right)^{0} + \left(\frac{1}{2}\right)^{30}$$

(205 ページ)

5 ユニバーサルデザインに関する取り組み

● 色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいよう, カラーユニバーサルデザインに配慮した。

● 文字

本文等に, 多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字 (ユニバーサルデザインフォント) を使用した。

通常のフォント

るような実数

ユニバーサルデザインフォント

るような実数

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-121	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 712	数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 全般的な留意点

- 1 基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めることができるよう、中学校との接続ならびに各学習事項の体系にも留意した。
- 2 事象を数学的に考察し表現する能力を高めることができるよう、用語・記号の定義や本文の説明, 練習問題は, 単純平明で理解しやすい内容を心がけた。
- 3 「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」の習得とともに, 数学のよさを認識し, それらを積極的に活用することができるよう, 章扉やコラム, 課題学習等の内容も生徒が興味をもてるような題材にした。
- 4 数学的論拠に基づいて判断する態度が育つよう数学的な厳密さを重視し, 本文の説明, 展開および例題の解答に論理的な飛躍や不統一な記述が生じないよう特段の配慮をした。

2 教科書の特徴

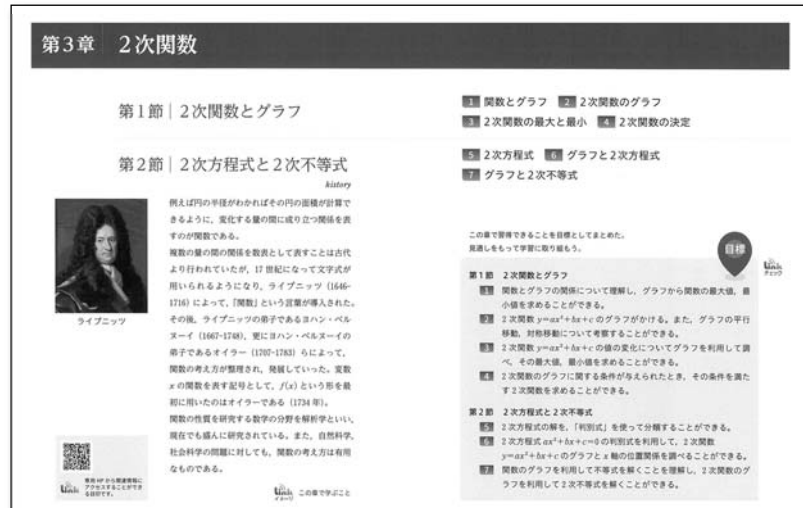
- 1 教材を精選し, 単純平明な例によって, 基本概念を理解し把握することが容易になるように配慮した。
- 2 中学校との関連を重視し, 多少既習事項と重複しても, 基礎的な事項について体系的にかつ正確に学習が行われるように配慮した。
- 3 生徒の自学自習によっても理解できるように, 例・例題・応用例題とその解説・解を多くし, また教材の選定・配列には十分注意した。
- 4 図版やカットを多数挿入し, 視覚的にも理解を容易にするように配慮した。
- 5 数学の体系を大きく把握できるように, 章・節の分け方を工夫し, 小項目を設けた。
- 6 重要事項は, 枠で囲んだり, ゴシック活字を用いたりし, 強調するようにした。
- 7 学習事項と関連させて, 各章の初めに数学史や挿話を記載し, 歴史的背景も解説できるようにした。更に, コラム等を入れて, 生徒の本文内容への関心を喚起するよう努めた。
- 8 学習事項と関連した内容を, 「研究」として挿入した。また, 高等学校学習指導要領の範囲を超えた事項を, 「発展」として扱った。これらは必修学習事項の枠外としたが, 意欲的な生徒の興味を刺激し, 高度な数学への関心を高めるように工夫した。
- 9 色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいよう, カラーユニバーサルデザインに配慮した。また, 本文の和文書体として, 多くの人が見やすく読みまちがえにくいデザインの文字 (ユニバーサルデザインフォント) を用いた。

3 教科書の構成要素

各章の構成

[章扉(左)] 章扉(左)の「history」では、その章の内容に関連する数学者や数学の発展の歴史などを紹介した。

[章扉(右)] 章扉(右)の「目標」では、その章で習得できることを目標として明示した。見通しをもって学習に取り組むことができる。



[例] 本文の理解を助けるための具体例である。

[例 題] 基本的な問題、および重要で代表的な問題である。「解」「証明」は、解答の簡潔な発表形式の一例である。

[応用例題] 代表的でやや発展的な問題である。「解説」には、解答の根拠になる事柄や解答の方針などを記してある。「解」「証明」については、例題と同様である。

[問] 本文や例・例題・応用例題の内容を補足するもので、例・例題・応用例題とともに、本文の理解を深めるための重要な教材である。

[練習] 例・例題・応用例題・問の内容を反復学習するための問題である。

[深める] 見方を変えて考えてみるなど、内容の理解を深めるための問題である。

[問題] 各節の終わりにあり、節で学んだ内容を身に付けるための問題である。
・節で学んだ内容の復習問題には、本文の関連するページを示した。
・破線の下に載せたのは、思考力を要する問題である。節で学んだ内容を活用して解決できる。

[演習問題] 各章の終わりにあり、A、Bに分かれている。
A：章で学習した内容全体の復習問題である。
B：総合的な復習問題や応用的なやや程度の高い問題である。

[研究] 本文の内容に関連したやや程度の高い内容を扱った。場合によっては省略してもよい。問題や演習問題で研究に関する内容を扱う場合は、研究マークを付した。

[発展] 高等学校学習指導要領における数学 I の範囲を超えた内容を扱った。すべての学習者が一律に学ぶ必要はない。

[コラム] 本文の内容に関連した興味深い話題を取り上げた。

巻 末

[総合問題] 思考力，判断力，表現力を問う総合的な問題である。章ごとに問題を用意しているので，章の学習を終えた段階で取り組むこともできる。

[課題学習] 本文の内容に関連する興味深い事柄について，学習者が主体的に取り組む課題を設けた。

[数学と〇〇] 数学と他教科，数学と日常生活など，身の回りにある数学について取り上げた。

[主な用語] 本書に登場する主な数学用語と，その英語表現を載せた。

インターネットへのリンクマーク

この教科書に関連した参考資料，理解を助けるアニメーション，活動を効果的に行うためのツールなどが利用できる目印である。
インターネットに接続することで活用できる。



4 各章において配慮した点

第1章 数と式 式の計算／実数／1次不等式

多項式の四則，因数分解など中学校での既習内容も扱い，より高度な内容へ体系的に学習が進められるように配慮した。実数，1次不等式は，基礎から平易に自然に理解されるように丁寧に説明した。

第2章 集合と命題

集合の基本事項や論理的な証明法の基礎が習得できるようにした。なお，この章の内容は，指導する時期がさまざまであることから，指導の便を考慮して独立した章とした。

第3章 2次関数 2次関数とグラフ／2次方程式と2次不等式

第1節では，グラフによる表現の助けも借りて，2次関数の基本的な性質を習得させることを第一の目的とした。第2節では，2次不等式の解法を詳しく解説した。説明に当たっては，2次関数のグラフや図を利用して，直観的な理解が得られるように配慮した。

第4章 図形と計量 三角比／三角形への応用

第1節では，三角比の定義と基本的性質を，鋭角の三角比から出発して，鈍角の三角比に至るまで丁寧な説明を行った。第2節では，正弦定理と余弦定理を証明と共に与え，平面図形や空間図形の計量問題を扱った。

第5章 データの分析

初めは，中学校で学んだヒストグラムや代表値についての復習とした。データの散らばりの項でも，まず，中学校で学んだ四分位範囲や箱ひげ図から取り上げ，次に分散・標準偏差を扱うことで，学習しやすくした。データの相関の項では，実生活のデータも用いて，正・負の相関関係を理解できるようにした。

課題学習

学習事項を発展させて，生徒が数学を探究できる課題とした。様々な運用に対応するため，巻末にまとめ，1テーマに対して複数の課題を設定した。数学Iでは，開平法，黄金比，2次関数の差分，偏差値など7テーマを扱い，三角比の課題学習では数IIの加法定理に繋がる課題を扱った。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	(1) 数と式 ア(ウ), イ(イ) ア(ア), イ(イ), 内容の取扱い(2) ア(エ), イ(ウ)(エ)	6～49 ページ	19
第2章 集合と命題	(1) 数と式 ア(イ), イ(ア)	50～71 ページ	8
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次 不等式	(3) 二次関数 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ) ア(ウ), イ(ア)(イ)	72～131 ページ	29
第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	(2) 図形と計量 ア(ア)(イ), イ(ア)(イ), 内容の取扱い(3) ア(ウ), イ(ア)(イ)	132～173 ページ	21
第5章 データの分析	(4) データの分析 ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ)(ウ)	174～209ページ	9
課題学習	〔課題学習〕, 内容の取扱い(4)	214～223ページ	4
		計	90

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-121	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数 I 712	数学 I		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
22,23	3次式の展開と因数分解	1	(1) 数と式 ア(ウ), イ(イ)	2
35	対称式と基本対称式	1	(1) 数と式 ア(ア), イ(イ)	1
36	2重根号	1	(1) 数と式 ア(ア), イ(イ)	1
68	命題「すべての x について p」 「ある x について p」	1	(1) 数と式 ア(イ), イ(ア)	1
114, 115	放物線と直線の共有点	1	(3) 二次関数 ア(ウ)	2
130	演習問題 1 3	1	(3) 二次関数 ア(ウ)	0.25
162	三角形の形状	1	(2) 図形と計量 ア(ウ), イ(ア)	1
167	ヘロンの公式	1	(2) 図形と計量 ア(ウ), イ(ア)	1
205	仮説検定と反復試行の確率	1	(4) データの分析 ア(ウ), イ(ウ)	1
219	まとめの課題 4 - 2	1	(3) 二次関数 ア(ウ)	0.25
220	課題学習 5 三角比の値と正弦定理	1	(2) 図形と計量 ア(ウ), イ(ア)	1
222, 223	課題学習 7 偏差値	1	(4) データの分析 ア(ア), イ(ア)	2
合 計				13.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容